

第9期（2024年度）事業報告

1. 理事会履歴

決議事項

2024年9月2日、日本皮膚科学会より推薦理事として加藤則人先生の後任として山口由衣先生（日本皮膚科学会理事/横浜市立大学）に依頼する旨の連絡を受け、臨時理事会（2024/9/9）および臨時社員総会（2024/9/12）に提案を行い承認されました。

山口由衣 先生（横浜市立大学大学院 医学研究科 環境免疫病態皮膚科学 教授
横浜市立大学医学部 皮膚科学教室 主任教授
横浜市立大学 先端医科学研究センター センター長）

報告事項

・ 毎月次事業報告

月末の定例会の時期に合わせて、事務局より月次報告書をメール配信し、毎月報告致しました。

その他、News Letterにて四半期毎に財務面を含めた運営状況を報告し、必要な情報の共有化を行いました。

2. 協力医師よりの症例登録

・ 2024年度総数 567件：アレルギー性 488件、非アレルギー性 79件

各年の4月1日～翌年3月31日に登録された症例登録の集計結果です。

症例登録をいただく医療施設には、特定臨床研究（特定臨床研究「化粧品等のアレルギー確認方法確立に関する研究」（実施計画番号 jRCTs041180105）に参加いただいております。

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
アレルギー性（件）	507	465	466	356	527	438	391	353	488
非アレルギー性（件）	194	99	108	94	66	56	34	36	79
総数（件）	701	564	574	450	593	494	425	389	567

3. 賛助会員企業の募集

・ 新規入会 5社 （退会 1社、減口 1口）

2024年度会員 賛助会員企業数＝117社、会費口数＝157口

賛助会員企業数の変遷

	事業年度	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
	年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
年度開始時	賛助会員数	103	113	112	112	115	112
	口数	142	152	151	151	155	152
年度終了時	賛助会員数	115	116	113	116	115	117
	口数	155	155	152	156	155	157

・勧誘状況

10/24 日本産業皮膚衛生協会会員研修会、10/25 関西安全性研究会にて 2 社を勧誘し、ご検討いただいた結果、1 社には 2025 年度より賛助会員として入会いただくこととなりました。

・広報活動

広告の掲載

- ✓ 第 49 回日本香粧品学会要旨集に後付け 1/2 頁の広告を掲載しました。

学会発表・雑誌掲載・講演会

■ 学会発表

SSCI-Net 活動の紹介のほかに、SSCI-Net 登録データの提供や成分提供の仲介等を行った皮膚科医の先生方に共同演者に加えていただき、活動を紹介していただきました。その一部を以下に紹介致します（敬称略）。

- ✓ 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会、杉山真理子（SSCI-Net）ほか：「SSCI-Net 登録例から見えてくる我が国における皮膚障害事例のトピックス」
- ✓ 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会、飯島茂子（はなみずきクリニック）ほか：「院内で発生した DS2 防塵マスクのゴムによるアレルギー性接触皮膚炎の原因成分の検討」
- ✓ 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会、欠田成人（済生会松阪総合病院）ほか：「ロジン関連化合物とダンマル樹脂による、放射線照射野のマーキングに用いた市販の油性マーカーペンによる接触皮膚炎症候群の 1 例」
- ✓ 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会、袋 秀平（ふくろ皮膚科クリニック）：「Dibutyl maleate/Dibutyl fumarate が原因であった靴のアレルギー性接触皮膚炎の 1 例」
- ✓ 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会、松倉節子（丸子中央病院）ほか：「化粧水およびヘアカラートリートメントに含まれる防腐補助剤グリセリンモノ 2-エチルヘキシルエーテル（エチルヘキシルグリセリン）によるアレルギー性接触皮膚炎」
- ✓ 第 75 回 日本皮膚科学会 中部支部学術大会、欠田成人ほか：「治りにくい皮

膚疾患・どうする ⑥-4 ～SSCI-Net 活用のすすめ～」

- ✓ 第 75 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、松永佳世子（刈谷整形外科病院/藤田医科大学/SSCI-Net）ほか：「リップエッセンスに含まれたトリイソステアリン酸ポリグリセリル-2 による口唇のアレルギー性接触皮膚炎」
- ✓ 第 115 回日本皮膚科学会茨城地方会、飯島茂子（はなみずきクリニック）ほか：「クロベタゾールプロピオン酸エステルシャンプーによるアレルギー性接触皮膚炎の 2 例」

■ 論文掲載

成分提供の仲介等を行った皮膚科医の先生方に、共同演者に加えていただきました。

- ✓ Miyazawa H. et al, Allergic contact dermatitis caused by menthoxypropanediol in a skin care lotion, Contact Dermatitis, 2024; 91(3):264 - 266.
- ✓ Iijima S. et al, Concomitant Reactions Among Rosin- Related Compounds in Five Cases of Allergic Contact Dermatitis Caused by Glyceryl Hydrogenated Rosinate, Contact Dermatitis, 2025; 25 Feb.

■ 講演会

- ✓ 日本産業皮膚衛生協会研修会にて、松永理事長より講演していただきました。「日本における香料アレルギーによる健康被害：一般社団法人 SSCI-Net の疫学調査と AMED 研究から」（2024 年 10 月 24 日）
- ✓ 日本化粧品工業会 2024 年度「化粧品安全性評価セミナー（初級）にて、SSCI-Net の紹介と成分パッチテストの推進について例年通り案内していただきました。（2024 年 6 月 17 日～6 月 30 日）

4. 業務改善実績

・システム修正について

データベースの医師登録サイトに以下の改修を行いました。

- 1) 「成分提供への協力の有無」に医師から SSCI-Net 仲介希望があった場合に、その後の事務局の動きが確認できるように「対応状況」の入力欄を追加
(修正費用：¥210,000)
- 2) 事務局用備考欄の追加
- 3) 説明コメントの修正、不要なコメントの削除

・日本化粧品学会との連携

2022 年度より矢上理事に日本化粧品学会と調整していただき、日本化粧品学会安全性検討委員会に成分パッチテスト推進部会が設置され、2024 年 4 月より活動で

きる体制となりました。2024 年 7 月より SSCI-Net に症例をご登録いただき成分パッチテストを希望された場合には、日本香粧品学会の支援により成分パッチテスト用試料の調製条件を決めていただく仕組みが稼働致しました。2024 年度は 4 件を依頼致しました。

5. 情報発信活動

・ News Letter の発行

毎月 10 日（土日や休日の場合はその翌日）に発行し、延べ 12 回に亘り時宜に即した情報を関係者へ配信致しました。

臨床医によるコラムは、毎回好評で、化粧品等の製造販売企業においては、リアルな皮膚障害状況がわかるので楽しみにしているとの声が寄せられています。一方、理事の先生方への負担が大きいので理事以外の皮膚科医への依頼や医師向けの化粧品の成分や業界の現状を案内する記事も配信するよう心がけております。

シリーズ「SSCI-Net 症例登録から抽出された課題と取り組み」の原稿ご担当

松永理事長 2 回、矢上理事 2 回、鈴木理事 2 回

理事以外への依頼：

「化粧品開発における動物を用いない皮膚感作性評価法開発の現状」

国立医薬品食品衛生研究所 ゲノム安全科学部第 4 室 (JaCVAM) 室長 足利多可雄 先生

「SSCI-Net に期待すること」堀田琴美 先生 (株式会社池田模範堂)

・ 特定成分に関する皮膚障害症例発生件数の問合せ

2016 年度より賛助会員へのサービスの一環として、賛助会員企業からの特定成分による陽性症例の問合せに対し、蓄積している陽性症例の概要情報を提供しております。本年度は、のべ 75 企業より 167 成分の問い合わせがありました (2023 年度: 41 企業、96 成分、2022 年度: 41 企業、111 成分)。過去 2 年間より問い合わせ数が多くなっていることから、この情報の有用性が認知され活用頻度も高まっていることを示していると思われます。今後も被疑製品の原因精査に協力し、情報の充実に努めたいと考えております。

6. 産学官連携活動

・ 化粧品等のアレルギー情報共有化推進連絡会

第 23 回および第 24 回連絡会をいずれもオンライン会議形式で開催致しました。

1) 第 23 回連絡会

2024 年 7 月 24 日に開催し、43 名 (SSCI-Net 理事を含む) にご参加いただきました。SSCI-Net より「2023 年度に登録された症例の概要 (中間報告) および活動に

おける課題」として「概要とトピックス（化粧品）」について松永理事長より、「概要とトピックス（医薬品・医療機器）」について鈴木理事より、「概要とトピックス（家庭用品・その他）」について矢上理事より報告致しました。その後、「令和5年度に実施した感作性物質の実態調査並びに原因究明事例について」について河上強志先生（国立医薬品食品衛生研究所（国立衛研）生活衛生化学部第四室 室長）より、「NITEにおける皮膚障害関連業務について」を佐々木和実先生（独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）フェロー）より報告がありました。佐々木先生からのご報告は、NITE内で令和6年度にて事故原因究明業務を終了するという内容でした。その他に、宗林さおり先生（国民生活センター参与：岐阜医療科学大学薬学部教授）より、最近首に装着する冷却材（呼称：クールネックリング等）による皮膚障害の報告が挙げられているので、情報提供を求める発言がありました。

2) 第24回連絡会

2025年1月29日に開催し、39名（SSCI-Net理事を含む）にご参加いただきました。SSCI-Netより「2023年度に登録された症例の概要（最終報告）および活動における課題」として「概要とトピックス（化粧品）」について松永理事長より、「概要とトピックス（医薬品・医療機器）」について鈴木理事より、「概要とトピックス（家庭用品・その他）」について矢上理事より報告致しました。

また、佐々木和実先生（NITEフェロー）からは、「NITEにおける皮膚炎原因究明事例の紹介」の報告がありました。NITEは令和6年度にて事故原因究明業務を終了する予定ですが、佐々木先生には今後も本会議へのオブザーバー参加をお願いし、ご了承いただいております。

以上のように、産官学でアレルギー性皮膚障害の重要な情報共有および議論が行われました。

・厚生労働省への家庭用品に係る症例情報の提供（受託事業）

家庭用品に係る症例の登録状況について、毎月14日までに厚生労働省（厚労省）化学物質安全対策室（化対室）に報告致しました。2024年度（2024年4月～2025年3月）の登録は64件でした。2023年度に関しては、「2023年度 家庭用品に係る健康被害の年次とりまとめ報告」が以下のURLにて公開されています。（次頁表1-1）<https://www.mhlw.go.jp/content/11123000/001332262.pdf>

SSCI-Netにご登録いただく家庭用品に関する皮膚障害症例が2022年度25件、2023年度15件と少なくなっておりました。そこで、日本皮膚免疫アレルギー学会日本接触皮膚炎研究班の班会議にて症例登録をお願いする機会をいただいたり、症例を登録しやすい環境づくりのために、アクセサリーなどの金属製品のニッケル含有の有無を確認できるニッケルスポットテスター（SmartPractice社製）をSSCI-Netより提供することを2024年2月のNews Letterで広報致しました。

広報後に多くの医療施設よりご希望をいただき、2024 年 3 月末までに 12 施設に、2024 年度は 5 施設に送付致しました。今後も、厚労省に家庭用品による皮膚障害症例の現状を知っていただくために、皮膚科医への呼びかけ等を行い、症例登録を促す活動を定期的に行うことが必要と考えております。

表 1－1 家庭用品による皮膚障害の報告件数

(参考) 2022 年度		2023 年度	
家庭用品	件数	家庭用品	件数
家庭用手袋（ゴム）※1	4	ピアス	4
家庭用手袋（非ゴム）	3	靴	2
ネックレス	3	ネックレス	1
ウェットスーツ ※2	3	ビューラー	1
ピアス	2	腕時計	1
エクステ用接着剤	2	眼鏡（先セルを含む）	1
ビューラー	1	冷却剤	1
食器用洗剤 ※3	1	ヘアピン	1
下着	1	ネイルチップ	1
イヤホン用イヤピース	1	メダルコイン	1
楽器	1	アクセサリー製作用レジン材料	1
アクセサリー（非金属）	1	総数	15
携帯ストラップ首掛け	1		
ゴルフ手袋	1		
総数	25		

※1 天然ゴム 2 件、合成ゴム 1 件、
不詳 1 件

※2 1 事例

※3 食品衛生法の対象製品であるた
め、2023 年度の集計対象に該当し
ない

・香料アレルギー研究班への日本人における香料アレルギーによる皮膚障害状況の提供（受託事業）

「厚労科研（R6-8 年度）化粧品等に含まれる香料アレルギー成分等への対応に資する研究（香料アレルギー研究班）：研究代表 国立衛研・生活衛生化学部・内山奈穂子」において、日本人における香料アレルギーによる皮膚障害状況の情報提供の依頼を受け、以下の情報提供を行った。

- ✓ Japanese baseline series（日本人がアレルギー性接触皮膚炎を生じる頻度の高い化学物質のセット）のうち、香料ミックスおよびペルーバルサム陽性の年次推移
- ✓ 化粧品等のアレルギー性接触皮膚炎のうち香料アレルギーによると思われる症例情報

化粧品等のアレルギー性接触皮膚炎のうち香料が原因となった症例は少なく、入手できるアレルギーも JBS に含まれる香料ミックスおよびペルーバルサム等で原因となった香料成分を確定することは難しい状況です。SSCI-Net では、化粧品等のアレルギー性接触皮膚炎の症例で、JBS の香料ミックスが陽性になった場合には、香料ミックスに含まれる成分が製品の香料に含まれているか、可能な限り確認を行って、情報の精度の向上に努めています。なお、本厚労科研は 3 年間の予定です。

7. 学術活動

- ・ SSCI-Net で収集された症例情報等の研究成果の関係学会発表および雑誌投稿

■ 学会発表

- ✓ 第 49 回日本化粧品学会、矢上晶子（一般社団法人 SSCI-Net、藤田医科大学医学部総合アレルギー科）ほか：「SSCI-Net 症例情報から見てきた化粧品の皮膚安全性(2024)」
- ✓ 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会、松永佳世子（刈谷整形外科病院/藤田医科大学/SSCI-Net）ほか：「SSCI-Net 2023 年度アレルギー性皮膚障害例のまとめ」
- ✓ 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会、中川倫代（岩手医科大学）、日本接触皮膚炎研究班：「Japanese baseline series (JBS) 2015 と JBS2 の 2023 年度陽性率」

■ 雑誌投稿

- ✓ 中田土起丈（昭和大学）ほか、オールインワン化粧品による接触皮膚炎、美容医学雑誌 Beauty、第 59 号（Vol.8 No.1, 2025）
- ✓ 松永佳世子（刈谷整形外科病院/藤田医科大学/SSCI-Net）ほか、SSCI-Net の活動—この 10 年のアレルギーの推移—、Cosmetic Science、2024 年 10 月号
- ✓ 杉山真理子（SSCI-Net）、松永佳世子（刈谷整形外科病院/藤田医科大学/SSCI-Net）、化粧品による皮膚障害の最小化を目指す SSCI-Net の取り組み、日本化粧品学会誌、48(2)、103-113、2024

8. 臨床支援活動

アレルギー性接触皮膚炎の原因成分の究明を目的として、皮膚科医からの成分パッチテストの仲介依頼を積極的に受けております。2022 年度より毎年約 60 件の臨床支援

の相談をいただいております、その多くはアレルギー性接触皮膚炎の原因精査を目的とする成分パッチテストの実施支援の相談です。一部は製造販売元にご協力いただけない場合もありますが、毎年 40 件以上の成分パッチテストにご協力いただけるようになっております。成分パッチテストを実施するためには、被疑製品に含まれる各成分を貼付するために適切な濃度及び溶媒を設定し、さらに貼付用試料を調製することが必要になります。これまで、調製条件の設定は松永理事長にご協力いただいておりますが、個人の知見に頼らずサステナブルな活動とするために日本香粧品学会に成分パッチテスト推進部会を立ち上げていただき、組織的なサポートがいただける体制となりました。試料調製も最近では製販元にご協力いただける機会も増えておりますが、まだ十分ではないことから、今後の対応策の検討が課題として残されております。

成分パッチテストを実施した際に、皮膚科医より結果の考察に関するご相談をいただき、松永理事長にオンライン会議システムで対応していただいたところ、成分パッチテストの際には刺激性が生じにくいフィンチャンバーを使用した方が正確な原因究明に繋がるとのご意見をいただきました。必要に応じて、成分パッチテスト支援の一環として、事務局よりフィンチャンバーの提供も始めました。

また、製品のアレルギー性接触皮膚炎の原因精査のため分析のご相談をいただくこともあり、家庭用品に関しては佐々木和実先生 (NITE) に分析をお願いしておりました。しかしながら、NITE は皮膚障害症例の原因究明のための分析業務を 2024 年度で終了することが決まり、早急に今後の対応の検討が必要となりました。SSCI-Net は家庭用品の皮膚障害症例に関して、厚労省化対室に報告しており、これまで医療機器等に関しては国立衛研の河上強志先生に分析を依頼した経緯があることから、国立衛研生活衛生化学部および化対室と相談し、被疑製品の分析依頼ができる仕組みを整備していただきました。NITE では、これまで多くの家庭用品による皮膚障害症例の原因究明の役割を担ってきており、分析数も非常に多かったので、原因究明に困っている皮膚科医の要望を全て解決できるわけではありませんが、ひとつの手段として今後も原因究明が継続できるよう体制を準備致しました。

成分パッチテストなどを通じて皮膚科医の間で SSCI-Net の認知性が高まっていることを感じております。成分パッチテストによって、原因究明につながれば、賛助会員企業への情報提供を通じ、安全な製品開発につなげることができると考えられます。このような側面も含めて、積極的に原因成分を特定すべく臨床支援を推進してまいります。

仲介実績（2025 年 3 月 25 日調べ）

年度	依頼数	成分提供	提供不可	分析依頼
2020	26	21	3	2
2021	39	33	4	2
2022	66	47	14	5
2023	61	45	10	6
2024	63	52	5	3
総計	276	215	40	18

9. SSCI-Net 関係者内に限定した医療施設紹介

本年度は、医療施設の紹介希望はありませんでした。企業にとっては安心材料となる支援と考えておりますので、認知性を上げるべく今年度もニュースレターによる紹介をしていきたいと思いをします。

10. 症例登録促進活動

SSCI-Net の活動として、「臨床医による皮膚健康障害症例報告の収集」を第一に掲げておりますが、症例登録は皮膚科医によるボランティアで支えられています。昨年、会計事務所の綿谷先生と相談し、非営利型一般社団法人であることも鑑みて、謝礼として物品をお贈りするのには問題ないとの見解をいただきました。そこで、本年も症例登録および JBS の結果登録数が多かった最上位 10 医療施設に、フィンチャンバー1 箱ずつお贈り致しました。

フィンチャンバー 50×5 チャンバーPP 1 箱
＜チャンバー＞アルミニウム/ポリプロピレン （内径 8mm）

11. 役員人事

役員人事に関する調整

- ・日本ヘアカラー工業会推薦理事の佐倉正明様が日本ヘアカラー工業会 安全性・情報委員会委員長を原 和宏様に交代するに際し、SSCI-Net 理事を交代する旨の連絡がありました。本社員総会の承認議案です。
- ・2024 年 1 月に日本皮膚免疫アレルギー学会より推薦いただいた室田浩之先生の任期が本社員総会終了時にあたるため、重任をお願いし重任に内諾いただきました。本社員総会の承認議案です。
- ・2016 年より理事および社員を務めていただいた鈴木加余子理事より、本社員総会にて理事を辞任、社員を退社したい旨の連絡をいただきました。
- ・これに伴い、定例会にて皮膚障害症例について毎週議論に参加していただく皮膚科医として伊藤 明子先生に理事就任をお願いし、内諾いただいております。本社員

総会の承認議案です。